

フューチャー イノベーション フォーラム

# 活動報告

# 2015

ACTIVITY REPORT

**FIF**  
Future Innovation Forum

ANNIVERSARY  
**10**  
YEARS

10th Anniversary





## 代表メッセージ

フューチャー イノベーション フォーラム (FIF) は、「イノベーションで人と社会を豊かに」というコンセプトのもと、人びとが組織の枠組みを越えて協力し、広く社会の発展に貢献することを目指して設立され、2016年1月1日に10周年を迎えました。設立以来、次世代リーダーが相互研鑽する場や子どもたちに自身の将来を考えるきっかけとなる場を提供しており、10年間で140のプログラムを実施し、のべ4,800名を超える方々にご参画いただきました。このように活動を継続できましたのも、長年にわたる皆様のご厚情のお陰と心より御礼申し上げます。

この10年の間に、ITをはじめとした先端技術は目覚ましく進歩し、政治や経済、文化など様々な分野でグローバル化が進みました。日本では、急速な少子高齢化や世界におけるプレゼンスなど社会構造や国の在り方そのものが問われています。世界情勢が大きく変わりグローバル競争が激化するなか、日本の確かな未来を切り拓いていくには、大きな転換期を迎えている今をチャンスと捉え、リスクをとってチャレンジすることが不可欠です。これまでの延長線上にはない「イノベーション」を起こすことが、企業や政府などの組織のみならず個人にも求められています。

私たちは活動を通じて、日本の明るい未来に向けたビジョンを描き、社会に変革を起こしていきたいと考えております。次世代リーダーが集い、ビジネス課題や日本の未来について議論する機会や、子どもたちにキャリア教育の場をもうけ、世代を超えて人と人をつなぐことで、新たな価値や可能性、そしてビジネスの芽を見出してまいります。

10年という節目の年を迎え、今後も活力あふれる豊かな社会を築くプラットフォームとなり、イノベーションの実現に寄与するとともに、さらに日本社会の発展に貢献していく所存です。

引き続き皆様のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



フューチャー イノベーション フォーラム代表

ウシオ電機株式会社  
代表取締役会長

Handwritten signature in black ink, appearing to read '宇野 浩之' (Ueno Hiroyuki).

フューチャーアーキテクト株式会社  
代表取締役会長

Handwritten signature in black ink, appearing to read '金丸 景文' (Kanemaru Keiichi).





## フューチャー イノベーション フォーラム 特別鼎談



フューチャー イノベーション フォーラム代表による新春恒例の特別鼎談。  
衆議院議員の稲田朋美様を迎えて、2015年を振り返りながら今後の展望と課題を語っていただきました。

衆議院議員  
自民党 政務調査会長

ウシオ電機株式会社  
代表取締役会長 FIF代表

フューチャーアーキテクト株式会社  
代表取締役会長 FIF代表

# 稲田 朋美 × 牛尾 治朗 × 金丸 恭文

### 日本にとって有利な時代

**金丸** 2015年の日本経済は、円安と原油安が企業の収益改善を後押ししました。今後の展望をどのように見えていますか？

**牛尾** 世界経済はグローバル化がさらに進み「供給過剰による需要不足」が続いていますが、特に原油安は、資源を持たない日本にとって非常に有利な状況です。技術革新によってエネルギー効率が飛躍的に良くなったことが大きいですね。また資金不足に悩む国も多々ありますが、日本は長年企業も個人も消費を抑えてきたので、全体で見ると資金が潤沢にあります。日本にとって有利な時代が始まりつつあると思います。

**稲田** しかし、今年に入って世界経済に不透明さがでています。一喜一憂することなく「一億総活躍社会」を推し進めて、強い日本経済の復活につなげたいですね。

**牛尾** まさにそうですね。人口減少は日本の国力低下につながるという声もありますが、私は必ずしもそうとは思いません。それよりも、高齢者や女性ももっと活躍できる環境づくりが大事ではないでしょうか。単に経済成長のために「人を増やせ」というのは疑問を感じます。

**金丸** 近い将来、人がしている仕事の大半はITやロボットに取って代わられると言われていています。そうなれば労働力不足は解消できるし、何より人がより知的な業務にシフトできます。我々は皆、何らかのスペシャリティを持たなければなりません。そういう「個」の集合体となることで、日本はグローバル競争を強く生き抜いていけるんじゃないかと思うのです。

**牛尾** 「一億総活躍社会」を実現するには、能力があれば100歳になっても働ける社会にしなければなりません。単に定年を引き上げればいいのではなく、我々も努力を続けて、能力を磨き続ける覚悟が必要です。

**稲田** 年齢に関係なく、国民の誰もが個々の能力に応じた収入を得られることが当たり前になれば、社会のバランスもとれるのではないのでしょうか。

### 行政改革のさらなる推進を

**金丸** 安倍政権になって公務員制度や医療、農業など様々な分野で改革が進んでいますね。

**稲田** 確かに進めています。それが社会全体や行政全体の仕組みを変えるまでには至っていません。個々の改革を連動させて全体の枠組みを大胆に変えていかないと、日





**稲田 朋美** (いなだ ともみ)

早稲田大学法学部卒。1985年弁護士登録。2005年衆議院議員に初当選。行政改革・公務員制度改革担当大臣、クールジャパン戦略担当大臣などを歴任。14年より自民党政務調査会長。



**牛尾 治朗** (うしお じろう)

東京大学法学部卒。1953年東京銀行入行。64年ウシオ電機設立。経済同友会代表幹事、経済財政諮問会議議員などを歴任。総合研究開発機構会長、経済同友会特別顧問(終身幹事)。



**金丸 恭文** (かねまる やすふみ)

神戸大学工学部卒。1989年起業。フューチャーアーキテクト代表取締役就任。産業競争力会議議員、規制改革会議委員、内閣官房IT本部本部長、経済同友会副代表幹事、NIRA代表理事。

本の再生につながらないと感じています。

**金丸** いま民泊の「Airbnb」や自家用車の相乗りサービスを行う「Uber」などの新しいサービスが、世界中に広がっています。資産を所有するのではなく“共有する”という新しい概念のビジネスモデルなのですが、日本では規制の壁や既存団体の抵抗もあり、広がりを見せていません。これでは新しいビジネスが育たない。新しい産業へのシフトも起こりません。

**稲田** 旧態依然とした仕組みや組織が弊害となっっていますね。時代に合わせて変えなければ。

**牛尾** 日本にも知恵とひらめきを持っている若者は大勢います。でも、それを試す場がない。ニュービジネスや強い企業を育てるには、自由な競争が不可欠です。土光臨調(第2次臨時行政調査会。1981-1983)では3公社の民営化を断行し、市場原理の中で揉まれながら各社競争力をつけていきました。行政がやるべきことは規制ではなく、健全な競争が行われるためのルールづくりと不正の摘発だけでいいのです。

**金丸** それに、従来の考え方や価値観も変えていかなければなりませんし、そういう発想ができる人材が必要です。たとえば農業では、TPP(環太平洋経済連携協定)の8億人の市場に対して、日本の農産物を輸出しようとしています。国にも既存の大企業にも“輸出”という概念がないことを痛感します。長年「農業を守る」ことばかりしてきたので、発想自体がないのです。新しい時代に向けて発想を切り替えていかないと、イノベーションは起こせません。

**稲田** 改革を前進させるには、従来の価値観に囚われない人材を積極的に活用して、組織を刷新していく必要がありますね。

**金丸** 新しい発想やアイデア、実現に向けた「挑戦」は、日本にとって大切な資源です。この無形の資源を活かす環境を整え、プレーヤーを増やしていくことが、日本再生の近道だと思います。

**牛尾** 自分の力で切り拓いていく若者を、社会全体で応援しようじゃありませんか。

### 魅力あふれる国を目指して

**金丸** グローバル化は個人や家庭レベルでもどんどん進んでいるように思います。インターネットで簡単に世界とつながりますし、2015年の訪日外国人数は約1,974万人と過去最多を更新しました。日本に住みたいという外国人が増える一方で、若者の日本への帰属意識は薄れているように感じます。実は欧州に留学中の私の息子も「日本には戻らない。このまま欧州で就職する」と言っています(笑)。日本をもっと魅力的な国にしていけないといけません。

**牛尾** そのためにも行政改革を進めて、国を再設計することが、やはり重要になってきますね。

**稲田** これまでの縦割り組織では利害関係が絡むため、どうしても限界があります。横串を刺すように根本から改革を進めていかないと、行き詰まることは目に見えています。そういう意味で、2016年は正念場です。成長と分配による好循環でアベノミクスの恩恵が隅々まで行き届くようにする。社会保障改革をやり遂げ、分配を実現するための個々の負担を明らかにする。課題はたくさんありますが、将来の世代に責任を果たせるよう、経済社会の大変革期という時代認識のもと一つひとつ確実に取り組んでいきたいと思っています。

(2016年1月13日実施、文中敬称略)

文責:Future Innovation Forum

# Contents

## FIFとは about FIF

about FIF 01

### 代表メッセージ

ウシオ電機会長 牛尾治朗  
フューチャーアーキテクト会長 金丸恭文

▶ P.1

## 会員向け企画 Activities for Members

活力ある日本の未来に向けて、企業や  
業界の枠を超え、次世代リーダーが相互  
研鑽し交流する場を提供しています。

members 01



### 特別鼎談

衆議院議員 稲田朋美様を迎えて

▶ P.2-3

## キッズ企画 Activities for Kids

日本の未来を担う子どもたちに向けて、  
知的好奇心や創造力を育む体験型プロ  
グラムを実施しています。

kids 01



### 特集 子どもたちの成長をみつめて

Future Kidsが佐川急便を再訪

▶ P.12-14

about FIF 02

**活動理念**

▶ P.6-7

about FIF 03

**プレスクリッピング**

▶ P.26-28

members 02

**イノベーションワークショップ**

IoTでビジネスを変える (2015年6月~7月)

▶ P.15-19

**設立10周年特集**

anniversary 01

**10年の歩み**

2006年1月の設立から2015年12月まで

▶ P.8-9

anniversary 02

**お祝いメッセージ**

11名の方よりメッセージ

▶ P.10-11

kids 02

**職業体験プログラム**

物流の最前線 (2015年7月)

セキュリティの最前線 (2015年8月)

▶ P.20-23

kids 03

**プログラミング教室**

子ども霞が関見学デー (2015年7月)

宇宙エレベーターロボット競技会 (2015年11月)

▶ P.24-25



# FIFの理念と活動

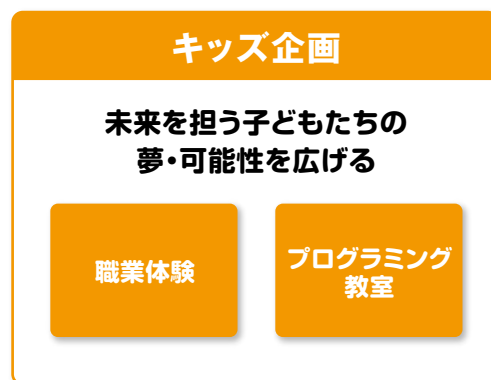
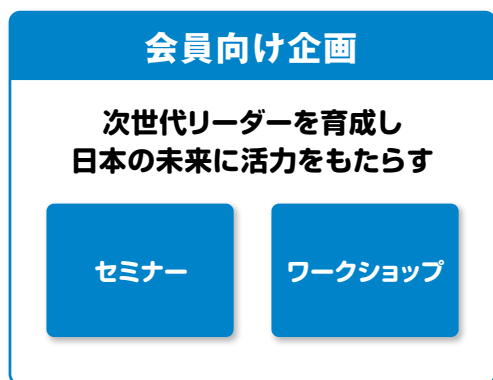
## イノベーションで人と社会を豊かに

フューチャー イノベーション フォーラム(略称:F I F)は、「イノベーションで人と社会を豊かに」という理念のもと、企業同士が協力しながら社会に貢献し変革をもたらしていくことを目的に、2006年1月に設立した社会貢献団体です。活動の趣旨にご賛同いただいている約680社の協力企業・団体の社員を中心とした会員組織で、会員数は2015年12月末現在で約1,350名にのびります。

発起人であるウシオ電機株式会社 代表取締役会長 牛尾治朗とフューチャーアーキテクト株式会社 代表取締役会長 金丸恭文が代表を務め、日本を代表する経営者や知識人など総勢16名のアドバイザーボードメンバーから助言をいただきながら、フューチャーアーキテクト株式会社(本社:東京都品川区)が会を運営しています。

設立以来、日本の未来はどうあるべきか、また豊かな社会を築くために企業は何をするべきかという観点から、様々な企業の次世代リーダーが互いに交流し切磋琢磨する場や、子どもたちが将来の夢を描ききっかけとなる場を提供しています。またF I Fは学生と企業、企業と学校、地域とNPO団体など人と社会をつなぐ役割も担っており、活動の輪が少しずつ広がっています。

F I Fの活動は「会員向け」と「キッズ向け」があり、会員の方々を対象に企業が抱える共通課題について議論するセミナーやワークショップを定期的で開催しています。また子どもたちに対しては、多くの協力企業・団体とともに、キャリア教育を目的とした職業体験やプログラミング教室などを企画・運営しています。



F I Fの使命は、日本の明るい未来に向けて、企業同士をつないでコラボレーションを促し、新しいビジネスの芽や可能性を見出すとともに、未来を担う子どもたちの夢や創造力を広げていくことです。

## アドバイザーボードメンバー

明石 勝也	聖マリアンナ医科大学 理事長
伊藤 元重	東京大学大学院 経済学研究科 教授
牛尾 治朗	ウシオ電機株式会社 代表取締役会長
金丸 恭文	フューチャーアーキテクト株式会社 代表取締役会長
川本 裕子	早稲田大学大学院 ファイナンス研究科 教授
栗和田 榮一	佐川急便株式会社 会長
小島 順彦	三菱商事株式会社 取締役会長
鈴木 茂晴	株式会社大和証券グループ本社 取締役会長
張 富士夫	トヨタ自動車株式会社 名誉会長
中西 勝則	株式会社静岡銀行 代表取締役頭取
新浪 剛史	サントリーホールディングス株式会社 代表取締役社長
藤沢 久美	シンクタンク・ソフィアバンク 代表
藤森 義明	株式会社LIXILグループ 取締役 代表執行役社長兼CEO
増田 宗昭	カルチュア・コンビニエンス・クラブ 株式会社 代表取締役社長兼CEO
三木谷 浩史	楽天株式会社 代表取締役会長兼社長
渡 文明	JXホールディングス株式会社 名誉顧問 (2015年12月末現在 氏名50音順敬称略)



アドバイザーボードミーティングにて(2015年5月)

## 2015年度の活動実績

会員向け企画コンセプト：グローバル競争を勝ち抜くための相互研鑽

キッズ企画コンセプト：世界に誇れる人材をFIFから

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
全体	★ 特別鼎談			★ 2014年度 活動報告書 発行	★ 第10回 アドバイザー ボード ミーティング							
会員		★ イノベーション セミナー				★ 第1回 ワークショップ	★ 第2回	★ 第3回				
キッズ							★ 子ども職が関見学デー	★ 物流の最前線& 再訪イベント	★ セキュリティの 最前線			★ 宇宙エレベーター ロボット競技会

# Future Innovation Forum 10年のあゆみ (2006年～2015年)



FIF設立記念セミナー



医療現場の最前線



『ビッグトレンド』出版



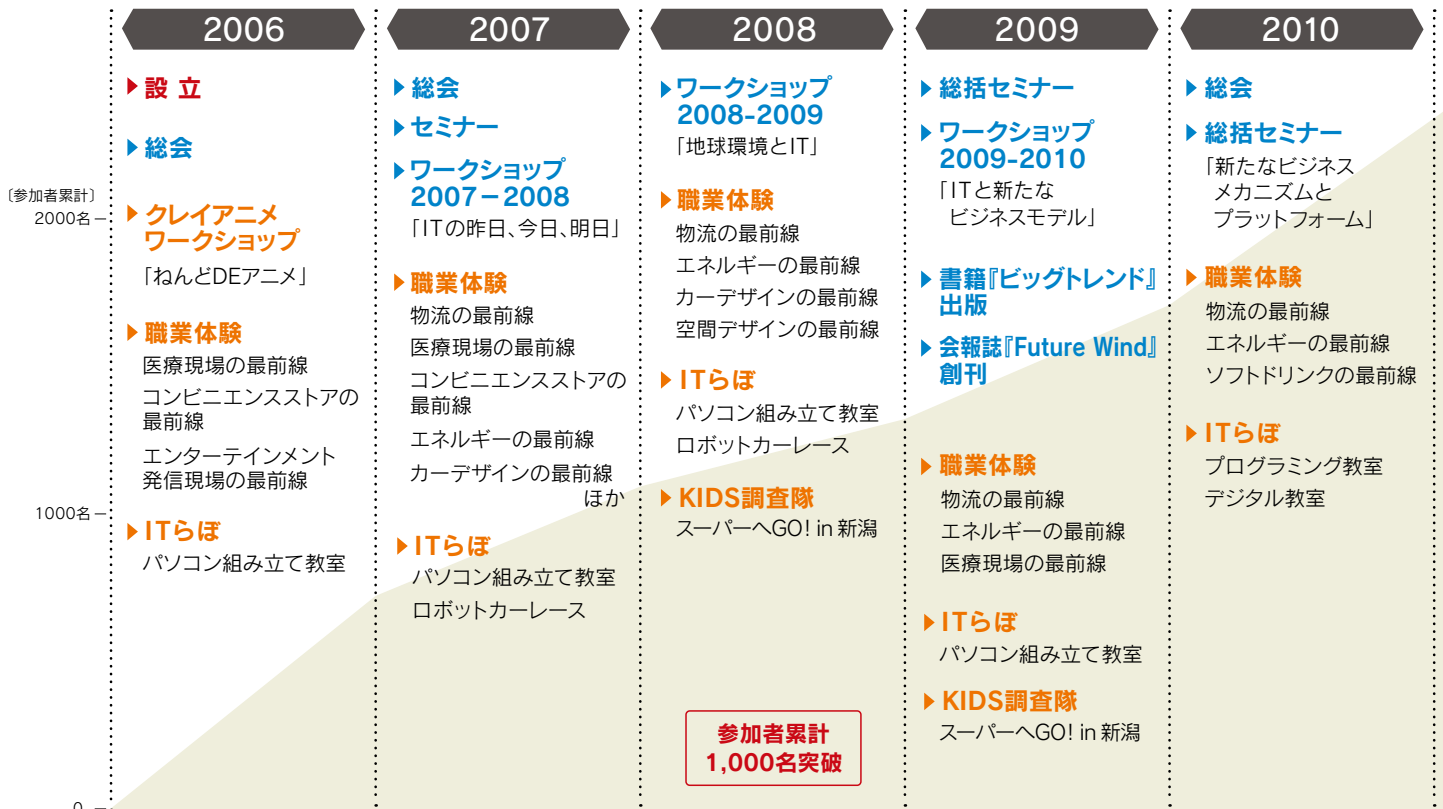
『Future Wind』創刊号



セミナー



エネルギーの最前線



## 主な活動



### 職業体験

小中学生を対象にしたキャリア教育プログラム。企業を訪問し、職場体験やトップとの対話をとおして、社会のしくみを学びます。



### プログラミング教室

ロボットを動かすというプログラミングの体験学習。ITの面白さやトライ＆エラーの楽しさを体感し、子どもたちの創造する力を養います。



FIFは、2016年1月1日に設立10周年を迎えました。  
 これまで活動にご参加いただいた方は、4,800名余りにのびります。  
 皆様に支えられた10年間の活動を振りかえります。

(参加者累計)  
 - 5000名

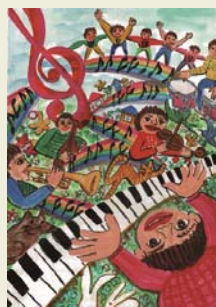
設立10周年特集



デジタル教室



ワークショップ



絵画コンクール



カルチャ・コンビニエンス・クラブ再訪イベント

- 4000名

- 3000名

2011

- ▶ **ワークショップ2011**  
「東アジアのビジネスチャンス」
- ▶ **総括セミナー**
- ▶ **職業体験**  
エネルギーの最前線  
はたらくクルマの最前線
- ▶ **追跡アンケート調査**
- ▶ **FIF Kids 絵画コンクール**

参加者累計  
3,000名突破

2012

- ▶ **ワークショップ2012**
- ▶ **総括セミナー**  
「躍進企業の挑戦  
～イノベーションが切り拓く未来」
- ▶ **職業体験**  
首都高の最前線  
物流の最前線  
エネルギーの最前線
- ▶ **ITらぼ**  
子ども向け学習コンテンツ  
「webで学ぼう!」公開
- ▶ **FIF公式サイトリニューアル**
- ▶ **facebook開設**

2013

- ▶ **ワークショップ2013**  
「イノベーションで日本を強く」
- ▶ **職業体験**  
物流の最前線  
セキュリティの最前線
- ▶ **職場訪問デー**  
コマツ  
首都高  
フューチャーアーキテクト

参加者累計  
4,000名突破

2014

- ▶ **総括セミナー**
- ▶ **ワークショップ2014**  
「グローバル競争を勝ち抜く企業経営」
- ▶ **Future Kids 再訪イベント**  
～カルチャ・コンビニエンス・クラブ
- ▶ **職業体験**  
物流の最前線  
セキュリティの最前線
- ▶ **プログラミング教室**  
アプリ制作教室

2015

- ▶ **総括セミナー**
- ▶ **ワークショップ2015**  
「IoTでビジネスを変える」
- ▶ **Future Kids 再訪イベント**  
～佐川急便
- ▶ **職業体験**  
物流の最前線  
セキュリティの最前線
- ▶ **プログラミング教室**  
子ども霞が関見学デー出展  
宇宙エレベーターロボット  
競技会運営協力

- 2000名

- 1000名

- 0

復興支援「スマイルプロジェクト」



- ▶ **石巻アートワークショップ(2011年)**
- ▶ **アートdeスマイル にじいるパレット(2011年)**
- ▶ **石巻ボランティア(2012~2013年)**
- ▶ **首都高子ども支援イベント運営協力(2012~2014年)**



ワークショップ

次世代リーダーを対象に、経営やITに関わるテーマについて知識を共有し、ディスカッションを通じて理解を深めます。



セミナー

様々な業種・業界から経営者層や次世代リーダーが集い、最新のビジネステーマについて知識を共有し、互いに交流を図ります。

# FIF 設立10周年 お祝いメッセージ

FIFの設立10周年にあたり、これまでお世話になった皆様より  
温かいメッセージをいただきました。



聖マリアンナ医科大学 理事長

**明石 勝也 様**

10周年おめでとうございます。「医療現場の最前線」として中学生のみなさんに医療の提供サイドで様々な体験をしてもらいました。人に手を差し伸べることの素晴らしさや、検査や治療シミュレーションに触れ、医療界に興味を高めてもらえて嬉しく思いました。私自身もアドバイザーボードの数多くのトップリーダーに大いに啓発され、豊かな社会の創出に医療・教育・研究でさらなるイノベーションを目指すエネルギーをいただきました。今後の発展に期待しています。



明治大学 経営学部 教授

**大石 芳裕 様**

ワークショップのコーディネーターを務めて、印象に残っていることが3点あります。第1に優れた講師陣を用意されたこと。第2に参加者が極めて熱心だったこと。第3にスタッフのホスピタリティが優れていたこと。ボランティア・ベースの研修で、これほど質の高い研究会を連続して実施するノウハウを教えてくださいですね。今後は参加者の意欲を何か形になるもので残せたら、参加者のモチベーションがさらに上がり、学ぶことも多くなるのではと推察いたします。



早稲田大学大学院 ファイナンス研究科 教授

**川本 裕子 様**

設立10周年おめでとうございます。「イノベーションで人と社会を豊かに」というコンセプトは、今の日本に最も必要な考え方なのではないでしょうか。コツコツと続けてこられた皆様のご努力に心からの賛意を表します。日本企業のダイバーシティー経営への遅れを痛感する昨今、多様な考えを共有しイノベーションを起こそうというFIFの活動がますます広がっていくことを期待します。私も引き続き応援したいと思います。



佐川急便株式会社 会長

**栗和田 榮一 様**

設立10周年おめでとうございます。2007年から職業体験に8回協力させていただき、のべ140名を超える小学生に物流の現場を体験してもらいました。毎年子どもたちとの対話を通して新しい発見があり、私も心が若返ります。また2015年には高校生や大学生に成長した子どもたちと再会し、その成長ぶりに大変嬉しく思いました。本企画にご協力させていただけることに感謝申しますとともに、これからもFIFの継続的な活動とますますの発展を期待しております。



神奈川県立 小田原高等学校 教諭

**小林 道夫 様**

設立10周年おめでとうございます。FIFとは設立当初から、職業体験やプログラミング教室など多くのイベントでお世話になっています。参加した本校の中学生や高校生たちは、それぞれ自分の進路を見つけ活躍しています。ある一人の女性は、現在京都大学霊長類研究所に所属し、ウガンダでチンパンジーの研究を続けています。きっかけは、聖マリアンナ医科大学病院での職業体験でした。人との出会い、学問との出会い、FIFが切り開いてくれた人生が、ここにあるのです。







株式会社静岡銀行 代表取締役頭取

**中西 勝則 様**

設立10周年を心からお祝い申し上げます。初年度に静岡市で開催された「クリエイティブワークショップ」に協力させていただきました。今でも、子どもたちが工夫し協力して創り出した粘土細工に命が吹き込まれ、画面の中で動き始めたときの歓声と、各々の目の中に現れた喜びと感動を思い出します。子どもたちには、無限の創造力が備わっており、その可能性を引き出す活動は、とても意義のあることです。これからも、その裾野を広げていかれることを期待しています。



株式会社LIXILグループ 取締役代表執行役社長兼CEO

**藤森 義明 様**

設立10周年おめでとうございます。これまでFIFの活動にはセミナーの講演、会報誌インタビュー、特別鼎談などに参加させていただきました。経営者として培った経験を基に、日本の未来を担っていくITに精通した若手ビジネスパーソンを育て、これからの日本の課題である「少子高齢化」と「デジタル化」と向き合っていきたいと思えます。今後もイノベーションを生み出す源泉である「人」を育てるために、無限の可能性を信じて、FIFの活動を応援し続けます。



サイバー大学 IT総合学部 専任教授

**前川 徹 様**

設立10周年おめでとうございます。  
私がコーディネーターを担当させていただいたワークショップでは、講師のみならずのお話はもちろん、参加者の多様な視点からの意見、真剣に議論する姿に大いに刺激を受けました。次世代が相互研鑽する場をつくり、子どもたちに学びの場を提供するFIFの活動は、とても価値あるものです。引き続き応援させていただきたいと思えます。



カルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社 代表取締役社長兼CEO

**増田 宗昭 様**

設立10周年おめでとうございます。2006年に職業体験に来てくれた、当時高校生だった皆さんと「20歳を過ぎたら飲みに行こうぜ!」という約束をしました。なんとそれを覚えていてくれ、2014年に再会を果たすことができました。高校生だった彼らが社会人となり、新しく素晴らしいビジネスプランを提案してくれたこととても感動しました。そんな素敵な機会を提供してくれるFIFの活動がこれからも発展していくことを心から期待しています。



東京大学 先端科学技術研究センター 教授

**森川 博之 様**

設立10周年おめでとうございます。  
FIFの活動にはワークショップの講師やコメンテーターとして関わらせていただきました。情報通信技術によってすべての産業を変革し、新たな社会を切り拓いていくためには、このように異業種の第一線で活躍するビジネスパーソンの方々が集まって議論する場が重要だと強く感じています。集まる場こそがイノベーションの場となるためです。応援しています!



JXホールディングス株式会社 名誉顧問

**渡 文明 様**

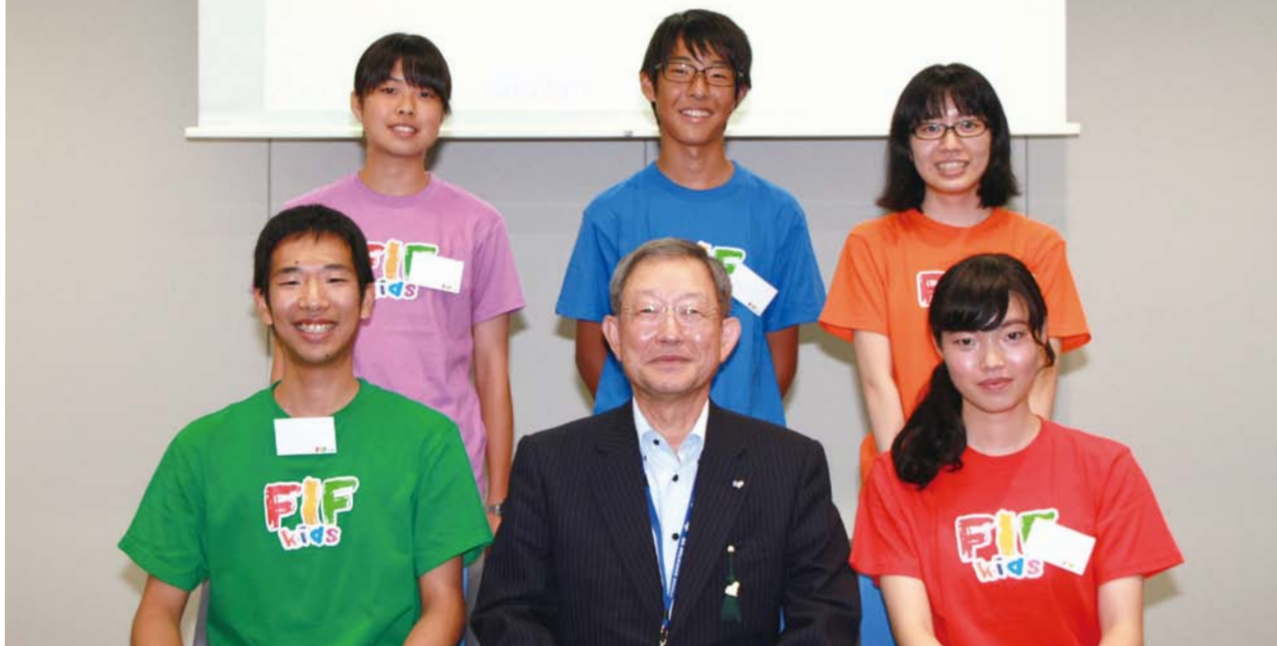
10周年おめでとうございます。2007年から職業体験に5回協力させていただき、タンカー乗船や燃料電池の実験を体験してもらいました。子どもたちの質問は鋭く、私自身大きな刺激を受けたことを覚えています。次世代人材の育成が重要性を増す中、日本を代表するリーダーたちが参画するFIFには、これまで以上にインパクトのある活動が求められることでしょう。私も引き続き協力し、ともに活力ある社会づくりに貢献してまいりたいと思えます。





# 特集 子どもたちの成長をみつめて

## Future Kidsが佐川急便 栗和田会長と再会



「あの子たちは今、どんなふうになっているんだろう。会いたいなあ」  
 佐川急便株式会社 栗和田榮一会長のこの言葉をきっかけに、小学生のとき職業体験プログラム「物流の最前線」に参加し、現在高校生～大学生に成長した6名が、2015年の夏、佐川急便を再訪しました。  
 6名はいまやFIFの定番となっている「物流の最前線」にボランティアスタッフとして参加。小学生のサポートをしながら新しい本社や最新の物流センターを見学し、佐川急便の進化を肌で感じました。また「未来の物流サービス」についてプレゼンし、栗和田会長や社員の方々と交流を深めました。

### 実施概要

日時：2015年7月29日(水) 10:00～18:00  
 会場：佐川急便株式会社 東京本社 (東京都江東区)  
 プログラム：  
 ①「物流の最前線」運営サポートボランティア  
 ②ワークショップ「未来の物流を考える」  
 ③交流会

## 「また佐川急便に行きたい!」

2007年から2010年に実施した「物流の最前線」の参加者に2015年の春、再訪イベントの案内を送ったところ、「突然の手紙、とても嬉しかったです」、「すごく楽しくて良い思い出になったのを、今でも覚えています」、「佐川急便のみなさんにまた会いたいです」といった熱いメッセージをいただきました。このうち、高校2年生から大学4年生に成長した6名が参加することになりました。

長い月日を経ての再会です。「今も続いているイベントのお手伝いがしたい」、「栗和田会長から会社のことや物流業界についてお話を聞きたい」という要望を受け、当日はイベントのサポートと未来の物流を考えるワークショップを通じて、お互いの成長を確かめ合うことにしました。



2010年



2009年



2007年



2007年



2008年



2008年

## 事前勉強会

「未来の物流」を考えるには、現状を知ることが欠かせません。そこで夏休みの再訪をまえに勉強会を開き、佐川急便の方から業務内容や物流の課題を解決した事例について学びました。小学生のときに物流のしくみを学んだメンバーでしたが、セールスドライバーが荷物の集配と同時にお客様から要望を聞き、サービス向上や新しい事業に活かしていることを知り、「とても勉強になりました!」。

こうして各自、周りで困っていることは何か、あったら便利なサービスは何かという視点で、新しい物流サービスを考えてくることにしました。



## 佐川急便の“今”を体感

当日は、まず「物流の最前線」のボランティアスタッフとして、小学生の参加者のサポートにあたりました。「自分が感じた“ワクワク”を子どもたちにも感じてほしい」と積極的に話しかけ、配達の手順を何度もおさらいしたり、名刺交換のお手本を見せたりしました。はじめは緊張ぎみだった子どもたちもすっかり打ち解け、笑顔で体験に臨んでいました。

また、子どもたちと一緒に新しい本社ビルや最新鋭の物流施設を見学し、佐川急便の進化を自身の目で確かめました。

▶▶ イベントの詳細はP21の「物流の最前線」を参照



わからないことは  
何でも聞いてね!

物流センターの  
進化に驚きました!

ドキドキしながら  
荷物を届けたのを  
思い出しました

鋭い質問もあり  
子どもたちから学ぶ  
ことも多かったです

名刺交換ではお手本を披露



## 「未来の物流サービス」を提案

ボランティア後は、2グループに分かれて「未来の物流を考える」をテーマにワークショップを行いました。人びとの生活を豊かにする新しい物流サービスについてアイデアをまとめ、発表しました。

### 地域コミュニティの場「SAGAWA STATION」

未来の社会は人口が減少し、ITがますます進歩するため、今以上に人同士の関わりが希薄になると考えられる。だからこそ全国に拠点を持つ佐川急便が、人びとが孤立しないように、地域にコミュニケーションの場「SAGAWA STATION」を提供する。そこでは荷物の受け渡しだけでなく、飲食店を併設し、お年寄りから学生、親子連れが集う場とする。交流を通して地域の活性化に貢献する。



### 高齢者の“見守り”サービス

高齢化が進むにつれて、お年寄りが社会から孤立することが大きな問題となっている。そこで佐川急便が行政や福祉施設と協力し、集配業務とあわせて、お年寄りと積極的に会話したり、健康チェックなどを行うサービスを展開する。また遠く離れて暮らすおじいちゃん、おばあちゃんと孫をつなぐため、ビデオメッセージの配達サービスなども行い、地域で高齢者を見守る体制の拠点となる。



#### 栗和田会長のコメント

今の若い人は私たちの世代と違って、短い時間で議論し、プレゼンできるのがすごいと思う。2チームに共通しているのは、今後さらにデジタル化が進む時代だからこそ、人と人とのコミュニケーションを大切にしたい、という想いだ。特に高齢者のことを考えてくれていて嬉しく感じた。新しいサービスを検討するにあたっては、若い人の意見をどんどん取り入れていきたい。若い人の力で、会社の意識や風土も変えていきたいと思っている。

## 交流会

最後に栗和田会長を囲んで交流会を行いました。当時の写真と見比べながら、「みんな大きくなったなあ。でも面影は残っているね」と目を細める栗和田会長。久しぶりに訪ねた佐川急便の感想をはじめ、学校の授業やクラブ活動、将来の夢について語り合いました。今後の進路やキャリアについて真剣に考えるきっかけにもなったようです。



### 参加者のみなさんから

子どもたちが配達実習で緊張している姿を見て、自分が参加したときのことを思い出しました。この日のことを大きくなって覚えてほしいし、「今、貴重な体験をしているんだよ」と伝えたいです。今回再会したのもご縁なので、またどこかでお会いしたいです。(N.W)

佐川急便の本社ビルが新しく大きくなっていて驚きました。物流センターでは、ベルトコンベアに載った荷物が自動で仕分けされていくのを見て、技術力の高さに圧倒されました。ワークショップでは先輩方の考え方に刺激を受け、交流会では栗和田会長と様々なお話ができて嬉しかったです。とても良い経験になりました。ありがとうございました。(Y.K)

社会で働くことに漠然とした不安を感じていましたが、今回参加して、お客様一人ひとりと向き合うひたむきな姿勢、明るい挨拶、そして皆さんが笑顔で働いていることに感銘を受けました。また発表する機会が多々たくさん緊張しましたが、それ以上に楽しく、人前で発表することに抵抗感がなくなりました。この経験を活かして自分が少しでも成長できたいなと思います。(R.F)

再訪イベントを通じて、栗和田会長の仕事に対する考えや思いを伺い、とても共感しました。「当たり前のことを、ただ当たり前にするだけ」と仰っていましたが、それがいかに難しく、いかに大切であるかを痛感しました。小学生のときに栗和田会長に直接質問したことを、大学生になった今でも覚えていますが、それがとても貴重な経験であったことを再認識しました。(D.S)



# 次世代リーダーを育成し、日本の未来に活力を

## イノベーションワークショップ2015



次世代リーダーの育成と会員同士の交流を深める場として、2007年からワークショップを開催しています。2015年度はドイツと米国で進行しているIoTビジネスの事例をみながら、IoTが製造業だけでなく流通や小売り、サービス業でもビジネスを変える可能性があることを示唆し、日本ならではのビジネスのあり方や自社ビジネスの変革について議論を深めました。

### シリーズテーマ: IoTでビジネスを変える ～第四次産業革命の最前線～

コーディネーター: サイバー大学 IT総合学部 専任教授

前川 徹 様

コメンテーター: 東京大学 先端科学技術研究センター 教授

森川 博之 様

会場: フューチャーアーキテクト株式会社(東京都品川区)



前川 徹 様

### プログラム概要

第1回 インダストリー4.0から学ぶドイツ企業の競争力の源泉

第2回 クアルコムにおけるInternet of Everythingへの取り組み

第3回 IoTで起こすビジネス革命～日本企業の可能性

### 参加企業 41社 (社名50音順)

株式会社AOKIホールディングス

株式会社アコーディア・ゴルフ

株式会社アルペン

ウシオ電機株式会社

オークネット総合研究所

オリックス株式会社

株式会社外為どっとコム

キッコーマン食品株式会社

株式会社群馬銀行

株式会社コメリ

佐川急便株式会社

サッポロビール株式会社

JX日鉱日石エネルギー株式会社

敷島製パン株式会社

株式会社シジシージャパン

全日本空輸株式会社

総合警備保障株式会社

ソフトバンクモバイル株式会社

大和ハウス工業株式会社

株式会社高島屋

株式会社TSIホールディングス

東京海上日動火災保険株式会社

ナイキジャパングループ

株式会社長野銀行

株式会社ニトリ

日本航空株式会社

日本たばこ産業株式会社

株式会社乃村工藝社

富士ゼロックス株式会社

株式会社バイクルーズ

株式会社ベルーナ

株式会社マイクロ・シー・イー・デー

マガシーク株式会社

マネックス証券株式会社

三井不動産株式会社

株式会社ヤオコー

楽天株式会社

株式会社LIXIL

株式会社リクルートライフスタイル

株式会社ローソン

渡辺パイプ株式会社

## 第1回

# インダストリー4.0から学ぶ ドイツ企業の競争力の源泉

2015年6月11日開催

日本貿易振興機構(ジェトロ) 海外調査部  
欧州ロシアCIS課 課長 前田 篤穂 様



## グローバルな情勢

2011年にドイツ政府は「ハイテク戦略2020行動計画」のひとつとして「インダストリー4.0」を提唱し、企業、産業団体、有識者が協力しながらインターネットによる産業(モノづくり)のデジタル化を推進する「第4次産業革命」に活路を見出そうとしている。「インダストリー4.0」は、情報通信技術を活用し、開発・生産から消費にいたる製造業の効率的な統合を図る戦略であり、受注から出荷までのプロセス・情報をリアルタイムに統括管理していくことと捉えられている。特にドイツでは自国の強みでもある「センサー技術」を駆使し、様々な生産プロセスから得られる情報をビッグデータ化し、将来予測による最適な生産ネットワークを確立する「スマートファクトリー」を目指している。生産拠点をドイツ国内に置きつつ、設備の自動化によって国際競争力を高め、将来はEU全域における共通のイノベーション基盤として確立しようとしている。

## インダストリー4.0の実像と背景

ドイツが「インダストリー4.0」に力を入れる背景には、米国の存在が大きい。米国はドイツとは異なり、民間主導でオープンな有志連合「インダストリアル・インターネット・コンソーシアム(略称IIC)」が設立され、米国のみならず日本やアジア各国、さらにドイツを含めた欧州の民間企業が参画し、ITを活用した生産システムの標準化などを目指している。こうした動きへの危機感から、モノづくり大国のドイツでは、スマートファクトリーによるエネルギーの効率化や、人の経験値や勤をビッグデータ解析による内部蓄積で潜在的な人手不足を解消していこうという取り組みを加速させており、既に企業に変化をもたらす事例も生まれている。たとえばボッシュの中国事業所では、微小な無線チップにより人やモノを識別・管理するRFID(Radio Frequency Identification)を活用し、在庫調査の作業時間を97%削減させた。また同社のドイツ事業所では、センサーを使って熟練工のネジ回しの回転速度や強度を計測し、最適なプロセス分析をすることで品質改善を図っている。

ドイツにおいて「インダストリー4.0」は、機械や自動車分野で特に経済効果があると見られており、大企業だけでなく中小企業でも「インダストリー4.0」への対応や導入が進んでいる。一方で課題も多い。新しいコンセプトのため企業や専門家など関係者の間に認識のギャップがあるほか、理念主導の欧州型でプロジェクトが進められているため、利益主導の米国に先行されるのではという懸念もある。BtoCの覇権を握る米国に対して、ドイツはBtoBに活路を見出そうとしており、モノづくりのプラットフォームをめぐる主導権争いは今後も続くと思われる。

## 企業における応用の可能性

「インダストリー4.0」の実用は、従来の勤や摺り合わせ技術をデジタル化するところから生まれると考えている。だからこそ、製造業では開発期間の短縮や多品種少量化を実現できる可能性があり、さらには農業といった熟練者の勤がモノという分野にも応用できるのではないかと思う。また、ドイツには様々なニッチチャンピオンが存在するため、個社が持っている技術をどこまでオープン化し、ギブ&テイクできるかということも鍵となる。自社の技術を提供し、産業界、さらには国として、売り出していくことができれば製造業の枠を超えてイノベーションが起こるのではないかと期待しており、そのあり方こそ日本の目指すべき方向性の参考になるのではないかと感じている。



# クアルコムにおける Internet of Everything への取り組み

2015年7月3日開催

クアルコムジャパン株式会社 特別顧問  
山田 純 様



## Internet of Everything (IoE) 市場とクアルコムのアプローチ

シリコンバレーでは、IoTに関わっていないともはやプレイヤーではないと思われるほど、様々な企業が新たなサービスの実現を目指している。クアルコムでは「移動体通信およびスマートフォン以外のデバイスをインターネットに繋ぐこと」をIoEと定義し、「エッジコンピュータ(端末側)のインテリジェントが高まっていく」という仮説のもと、多様なサービスの実現を後押ししている。既に当社の通信技術やチップは様々な企業に採用され、HaierのスマートオープンやLIFXのLEDランプなど携帯やスマートフォン以外のデバイスのインターネット化に貢献している。その結果、2014年度の決算では、IoEの分野の売上が10億米ドルを超えた。2015年度は売上の10%以上を占めると予測している。

## キーテクノロジー

IoTの分野は多岐にわたり、必要とされる技術も幅広いことから、当社でもそれぞれの端末やサービスに応じたチップの開発を進めている。なかでも通信と知能化に関連する3つの技術を重要な要素と捉えている。1つめは、次世代高速大容量通信「LTE-A,B」だ。現在、この技術をバージョンアップさせた「MTC (Machine-Type Communications)」を開発している。これは低速小容量のデータ通信を実現することで電力消費を減らすというもので、IoTの代表的な活用例であるM2M (Machine to Machine)の広がり背景に、通信に関わるバッテリーの持ち時間を大幅に延ばすべきという市場のリクエストを受け、力を入れている。2つめは、「AllJoyn」というオープンソースのソフトウェアフレームワークである。当社が主導する「AllSeen Alliance」はAllJoynをIoT規格のベースとしており、ライセンスフリーでの使用を推進し、機器同士がメーカー間の壁を越えて通信し合うことで新たなサービスの創出を目指している。3つめは、「Cognitive Computing」だ。代表的なアプリケーションは人工知能だが、人間が認知、推論する技術をコンピュータが担うことを目指している。すべての情報はクラウドに直結しインテリジェントはWebに依存すればいいというWoT (Web of Things) という考え方もあるが、クアルコムでは今後のIoT分野でのニーズを見据え、端末側がインテリジェントの役割を担うことを研究している。

## AllJoynの活用例とIoEの未来

多種多様なインターネット対応機器がこれまで市場に投入されてきたが、メーカーや機器ごとにアプリケーションが存在し、機器間の連携ができないという問題があった。しかし、「AllJoyn」という統一規格を活用すれば、テレビやスピーカーなどの端末を自宅のネットワークに繋ぐだけで機器同士が互いに認識、連携できるようになる。ひとつのスマートフォンやタブレットで操作でき、情報の一元管理もできるようになる。このため世界160社以上の企業が参画するAllSeen Allianceでは、これまでにない新たなサービスを生み出そうと議論を重ね、ブラッシュアップを図っている。同様に、サムスン電子とインテルが主導する「OIC (Open Interconnect Consortium)」をはじめ、AppleやGoogleもそれぞれIoT関連のコンソーシアムを設立しており、今後はどこがコンシューマー系のIoTの覇権を握るのかは不透明だ。今後も通信モジュールはあらゆる機器に搭載されていけようが、クアルコムも自社の技術を応用しながらビジネスチャンスを広げたいと考えている。日本企業にも言えることだが、IoTというこれから大きく成長する可能性を秘めた新市場においてプレイヤーになるためには、自社の技術や強みをよりオープンにし、提供していくことが重要だと感じている。





## IoTで起こすビジネス革命 ～日本企業の可能性

2015年7月27日開催

東京大学 先端科学技術研究センター 教授  
森川 博之 様



### IoTビジネスの可能性

2014年1月、米Googleは家庭用のサーモスタットを手掛ける米ネスト・ラボ社を32億ドル(当時のレートで約3,200億円)で買収した。Googleは単にデザイン性に優れたサーモスタットが欲しかったのではない。サーモスタットをネットワークにつなげることで、初めてリアルなデータを手に入れたのだ。すでに家庭内の様々な機器とサーモスタットを連携させて新たなサービスを展開しており、サーモスタットを核としたプラットフォームを構築し、スマートホーム市場への参入を着実に進めている。この10年を振り返ると、アマゾンやGoogle、フェイスブックなど勝ち組と言われるIT企業は、すべてデータを集める仕組みをつくりあげており、コンテンツや行動情報をうまく収集・活用してきた。そして、いま最も注目されているのが「モノの情報」だ。ドイツでは官民連携による「インダストリー4.0」、米国では民間主導による「インダストリアル・インターネット」の動きが広がっているが、今後はまだ誰も集めていないモノの情報をいかに集め、いかに活用するかが大きな鍵を握るだろう。

### 生産性の向上と価値の創出

IoTの本質は、生産性の向上と価値の創出にある。これまで人が経験と勤で行ってきたプロセスをデータ化することで、作業が大幅に効率化されることが見込まれており、特に生産性の低い農業や医療・ヘルスケア、土木分野における効果への期待は大きい。世界に先駆けて農業にITを取り入れたオランダでは、農産物の発育状況をセンサーで個別に把握し、温度管理や水やりなどの作業をすべて自動化することで、生産性を飛躍的に向上させた。また経済動向を見ながら農産物を市場に出すタイミングを計り、高い収益率を確保している。医療では米国で発売された「スマートフォーク」が注目されている。口に運ぶスピードや回数を感じし、食べるペースが速いとフォークが振動して警告する。急いで食べるのを防ぐことができ、ダイエット効果も期待されている。また土木業界では建物や橋梁、道路、下水道管などにセンサーを取り付けて形状の変化などのデータを収集し、防災やメンテナンスに活用しようという動きが広がっている。身の回りのあらゆる機器がネットワークにつながることで新しい価値を生み出しており、これまでにない事業やサービスが連続と誕生するものと思われる。

### 事業の再定義とIoTビジネス

1980年代に誕生したITは、社会を一変させた。デジタル化の進展によって、様々な業界や企業で事業を再定義する動きが進んでいる。たとえばアマゾンは、ネット通販企業から自前の物流システムを持つ企業へシフトし、米GEもIoTの活用によって製造業からサービス業への転換を図っている。IoTを巡って世界で覇権争いが繰り広げられているが、主導権を手にした国や企業はまだ現れていない。今後本格化するIoTビジネスにおいて日本企業が世界をリードしていくには、同じ土俵で戦える今こそ、あらゆる可能性にチャレンジすることが大切だ。たとえるなら“海兵隊”を目指してほしい。海兵隊は真っ先に前線に出て行き、本隊が乗り込めるように道を切り拓く。日本企業の強みは現場に強いことにある。お客様のニーズを吸い上げてサービスや事業に活かす能力に優れ、それを実現できる高い技術力もある。だからこそ失敗を恐れず、果敢に挑戦してほしい。その積み重ねが日本経済の活性化にもつながると期待している。



# イノベーションワークショップ2015

## —参加者の声—

講義後は、毎回グループディスカッションを行いました。「消費者として実現させたいIoTを活用したアイデア」や「サプライチェーンがつながることで生まれるIoTを活用したアイデア」について参加者同士が自由に意見を出し合い、発表しました。

### 第1回 インダストリー4.0から学ぶドイツ企業の競争力の源泉

- ・インダストリー4.0への海外の取り組みや具体的な事例など、普段知ることができない内容を聞くことができ、とても勉強になりました。
- ・ドイツとアメリカによる世界標準ルールの覇権争いとともに、両国の国民性や取り組み方法の違いが理解でき、大変面白い内容でした。日本は技術で既に実現している部分があるなど決して遅れているわけではなく、業界と国が一体となった取り組みが遅れているのではないかと感じました。
- ・各グループの発表に対するコメントが、視野を広げる上で大変参考になりました。
- ・同じ業界内の方々と意見交換する機会を持って、有意義な会合でした。

### 第2回 クアルコムにおけるInternet of Everythingへの取り組み

- ・IoTへの取り組みや米国の現状が理解できました。IoTの活用によって産業や社会にどのような変化が起こり得るのかをさらに詳しく伺いたいと思いました。
- ・各デバイス／サービス間のインターオペラビリティの重要性を非常に強く感じました。一方で、どのように取り組めばIoTの波に乗れるのか、または乗り遅れないのかという非常に難しいテーマだと感じました。
- ・今後の業務や弊社の取り組みを考える上で、視野を広げることができました。
- ・「消費者目線でのIoT活用」という自由なテーマ設定だったので、多くのアイデアが出て有益な議論ができました。
- ・日常生活とITがますます密接になり、生活の一部になっていくと強く感じました。逆に今後の人間のあり方についての課題認識も持ちました。

### 第3回 IoTで起こすビジネス革命～日本企業の可能性

- ・様々な最新事例をご紹介いただき、新たな気づきや実現の可能性を感じることができました。
- ・世界の最新事例が非常に興味深く、各事例の背景にあるストーリーをさらに詳しく聞きたいと思いました。
- ・大変勉強になりました。当社でも今後製品のIoT化を検討していこうと思っています。
- ・普段の仕事の枠を超えた内容について同業他社の皆様と活発に意見交換できたことが、とても刺激になりました。
- ・様々な業種の価値観を知ることができ、楽しく参加しました。
- ・他業種の方々とディスカッションや講演を拝聴することで、普段の業務では得られない新しいビジネスへのヒントを得られ、非常に有意義でした。



## 職業体験プログラム

FIFは2006年の設立からキャリア教育の一環として、小中学生を対象とした職業体験プログラムを実施しています。職場での仕事体験やトップとの対話を通じて働くことの楽しさややりがいを体感し、早い段階から社会に関心を持ってもらうことを目的としています。

この10年間で約580名の子どもたちが参加しました。



### コンセプト

#### 社会の “しくみ”を実感

企業の役割や商品・サービスが提供されるまでの裏側を学び、今まで気づかなかった社会の“しくみ”を実感する。

#### 社会人として あるべき姿の模索

企業のトップや働く大人たちと対話することで、社会人としての理想像やリーダー像、将来の夢をより現実的に描く。

#### 働くことの楽しさや やりがいを体感

学校や家庭とはひと味違う、オフィスや工場での様々な体験とおして、働くことの楽しさややりがいを体感する。

### プログラムの特色

参加者一人ひとりが“体験すること”を大切に、協力企業とともにそれぞれの企業の特色を生かしたオリジナルプログラムを企画しています。

#### 01 | 企業・団体のトップとの対話、ふれあい

普段接する機会が少ない企業・団体のトップの方々のお話をきいたり、直接質問したりすることで、仕事への情熱や経営に対する姿勢を学ぶ。

#### 02 | 普段は見られない場所やしくみの見学

関係者以外には公開することのない研究所やシステムなどを見学し、その企業・業界における最先端の技術やしくみにふれる。

#### 03 | 現場での職業体験

オフィスや店舗で実際に行われている業務を大人とともに体験しながら、働いている人の想いやプロの仕事を肌で感じる。



# 物流の最前線

制服を着てセールスドライバーの仕事体験しました。荷物の配達実習や物流センターの見学、会長との名刺交換や質疑応答を行い、物流のしくみを学びました。8回目の開催。



## 1 宅配便が届くしくみを学習



## 2 トラックの見学乗車体験



トラックの種類がたくさんあってびっくりした

## 3 配達の予行演習



## 5 大型物流センターの見学



## 4 荷物の配達実習



ドキドキしたけど楽しかった

## 6 荷物の発送体験



## 7 栗和田会長への質問会

「まごころ」も一緒に配達するところがすごいと思った



### 実施概要

日時：2015年7月29日(水) 10:00~16:00  
 会場：佐川急便株式会社 東京本社 (東京都江東区)  
 参加者：小学5、6年生 20名  
 共催：佐川急便株式会社  
 フューチャー イノベーション フォーラム  
 協力：フューチャーアーキテクト株式会社  
 後援：江東区教育委員会、品川区教育委員会

みんな元気でしたね。日本の未来は明るいという気がします。成長したときに、自分の周りの人たちが豊かになったり、幸せになったり、心地よく生活できたりするような仕事に就いてくれたら本当に嬉しいです。そうなれば、この企画を続けてきた意義もあると思います。



佐川急便株式会社 会長  
**栗和田 榮一 様**

# セキュリティの最前線

ウェアラブル端末を使って不審者を捜しだす最新警備のデモや無人飛行ロボット(ドローン)の操作体験を通じて、人とITが融合した未来のセキュリティを学びました。3回目の開催。



## 1 警備の仕事について学習



## 2 警備ロボットの見学



## 4 人とITが融合した未来の警備体験



ロボットと人が力を合わせて人を助けているなんてすごい!

## 3 ドローンを活用した最新警備の学習



新しい技術を知ることができてうれしかった

## 5 AEDの操作体験 防災講習



## 6 青山社長への質問会

青山社長に質問ができてよかったです



ALSOK 社長  
青山 幸恭 様

理系と文系の考えが合わさった面白い質問が多くて、大変刺激になりました。子どもたちには人のために何ができるかを考え、勉強でもスポーツでもいから何かに打ち込んでほしいですね。次世代のメインプレーヤーとして競争力のある人に育ててほしいです。

### 実施概要

- 日時：2015年8月7日(金)10:00~16:00
- 会場：ALSOK 本社(東京都港区)
- 参加者：小学5、6年生 24名
- 共催：ALSOK  
フューチャー イノベーション フォーラム
- 協力：フューチャーアーキテクト株式会社
- 後援：品川区教育委員会



# 職業体験プログラム — 参加者の声 —

FIFはプログラム終了後、参加した子どもたちと保護者の方々にアンケートを実施し、プログラムの見直しや運営の改善に役立てています。アンケートに寄せられた声の一部を紹介します。

## 質問1 参加してみてどうでしたか？

とても楽しかった 91% 9%  
楽しかった

## 質問2 訪問した会社がどんな会社か、どんな仕事をしているのかわかりましたか？

よくわかった 88% 12%  
わかった

## 質問3 印象に残ったことはなんですか？

### 物流の最前線

- ▶ 送り状が5枚に分かれていて、それぞれ役割があること。
- ▶ 電気自動車がとても静かに動いたこと。
- ▶ ベルトコンベアが荷物を確実に届けられるしくみになっていること。
- ▶ 配達するのは初めてだったので、とても緊張した。
- ▶ 栗和田会長との名刺交換は、一生に一度の体験だと思う。
- ▶ こんなに大きな会社も、できたときは全然仕事なかったと聞いてびっくりした。

### セキュリティの最前線

- ▶ ロボットが人の顔を記憶して追跡すること。
- ▶ ドローンで警備やソーラーパネルの点検をしていること。
- ▶ 最先端の技術を研究している会社だと思った。
- ▶ AEDで人の命を救えるのはすごい。
- ▶ ALSOKのみなさんが「思いやり」の心で人を助けていることに感動しました。
- ▶ 青山社長がとても熱心に話してくれて、会社への思いが伝わってきました。

### 保護者の声

- ・帰宅してすぐ「佐川急便は1日に400万個の荷物を配達しているんだよ」とスケールの大きさを教えてくれました。あこがれていた青と白の制服を着られて、大変満足した様子でした。
- ・セールスドライバーの仕事や荷物が届くしくみがよくわかったそうです。自分が発送の手配をした荷物が翌朝に届き、とても感動していました。
- ・佐川急便で働く女性は、言葉づかいがハキハキしていて機敏に動き、カッコいいと話してくれました。
- ・挨拶の大切さを学んだようで、参加後は声のボリュームが大きくなったように感じました。
- ・体験を通じて仕事の大変さがわかり、働いている人たちに感謝の気持ちを持つようになったと思います。
- ・人に喜ばれ、人の役に立つ仕事がしたいそうです。



### 保護者の声

- ・ドローンを操縦したこと、青山社長に質問したこと、社員さんが優しくしたことなど話したいことがいっぱい、とても興奮していました。
- ・息子が「楽しい!」と言って帰ってきました。本人なりに仕事についてイメージがつかめたようです。
- ・人とロボットの技術が合わさって安全な社会が守られていることに、感動していました。
- ・ウェアラブル端末やドローン、警備ロボットなど今までまったく知らないことに触れ、世界が広がったようです。
- ・当日の様子を一から全部話してくれました。参加後は自分から進んで何かをやることが増えました。
- ・息子と仕事や将来について話すきっかけになりました。ITの進展で以前はなかった仕事が生まれており、「これまでにない仕事をしたい!」と言っています。





## プログラミング教室



FIFは2006年の設立から、イノベティブな人材の育成をめざし、小中高生を対象にしたIT教室を実施しています。プログラミングの体験学習をとおして、ITの楽しさや創造する喜びを体感するとともに、論理的な思考力を養い、ITのおもしろさや可能性を感じてもらうことを目的としています。

### コンセプト

#### ITへの興味を喚起

ITのしくみを知り、技術のおもしろさやデジタルの可能性を感じることで、ITを身近に感じる。

#### “使う側”から“創る側”へ

自分の手で作りあげる達成感を味わい、ITを“使う側”から“創る側”に立つ喜びや楽しさを体感する。

#### ITで社会をデザイン

ITをツールに、新たな社会のしくみを考え、変革を起こしていける力を身につける。

## 子ども霞が関見学デー

### 「宇宙エレベーターロボットを動かそう!!」

中央省庁の仕事を子どもたちが体験できる「子ども霞が関見学デー」の総務省のブースに初めて出展し、プログラミング教室を開催しました。子どもたちは2人1組になって、空中に吊り下げられた“宇宙ステーション”にミニフィギュアを届けるというプログラミングに挑戦し、2日間で120名が参加しました。

#### 実施概要

日時： 2015年7月29日(水)、30日(木) 10:00~16:00  
会場： 総務省(東京都千代田区)  
参加者： 小学1年生~中学3年生 120名  
協力： 宇宙エレベーターロボット競技会実行委員会  
神奈川大学附属中・高等学校  
日本女子大学附属中学校・高等学校  
株式会社ナリカ、フューチャーアーキテクト株式会社



# 宇宙エレベーターロボット競技会

アイデアとプログラミング力を競う日本発祥のロボット競技会「宇宙エレベーターロボット競技会」の運営に協力しました。大会には全国から計62チーム、約250名の小中高生が参加。世界標準のロボット教材をプログラミングし、地上5mに設置された“宇宙ステーション”まで、いかに速く正確にフィギュアを運ぶかを競いました。競技後はポスターセッションを行い、互いに交流を深めました。

## 1 宇宙エレベーターの講演



## 2 参加チームによる30秒スピーチ



スピーチはとっても  
きんちょうした

## 3 競技会



将来は宇宙に関わる仕事がしたい!

## 4 ポスターセッション



## 5 表彰式



### 実施概要

日 時： 2015年11月8日(日) 10:00～16:00  
 会 場： 日本科学未来館(東京都江東区)  
 参加者： 小学生～高校生 62チーム 約250名  
 主 催： 宇宙エレベーターロボット競技会実行委員会  
 (実行委員長: 神奈川大学附属中・高等学校 小林道夫教諭)

### 競技結果(チーム名、秒数)

優 勝： ゲンちゃんズ (ithinkplus/東京) 35秒  
 準 優 勝： こでまりNEXT (東京都立総合工科高等学校) 37秒  
 第 3 位： K&K (東京都立府中工業高等学校) 43秒  
 ポスター賞： チームこあ (横浜市立本町小学校、横浜雙葉小学校)

# プレスクリッピング

職業体験プログラムを中心に、テレビや新聞、ウェブニュースなど多数のメディアで紹介されました。

	日付	媒体	見出し
	06.03	Logistics Today	佐川急便、小学生対象の職業体験プログラムに協力
	06.05	ECのミカタWEB	ちっちゃな「佐川男子」誕生？ 佐川急便の小学生向け職業体験
	06.05	mimily	小学5、6年生参加者募集！ 佐川急便で『物流の最前線』を体験しよう！
	06.11	mimily	小学5、6年生25名募集！ ALSOKの職業体験 8月7日(金)開催
	06.12	リセマム	【夏休み】ALSOKの職業体験、警備ロボットやドローンを体験 8/7
	06.29	J:COM港新宿 「デイリーニュースダイジェスト港新宿」	※お知らせ欄にて告知
	07.30	世界日報	※社会面「パトロール」欄掲載
	08.04	カーゴ・ニュース	佐川急便/FIF 小学生が「物流の最前線」を職業体験 5・6年生が大型物流現場を見学、宅配便を届ける実習体験
	08.05	東京ベイネットワーク 「ベイネットニュース」	佐川急便 職業体験
	08.06	物流ニッポンWEB	佐川急便 & FIF、小学生対象に職業体験 制服着用し配達実習
	08.06	物流ニッポン	小学生対象に職業体験 佐川急便 & FIF 制服着用し配達実習
	08.06	Logistics Today	佐川急便東京本社で8回目の職業体験イベント
	08.08	読売新聞夕刊	佐川急便 職業体験プログラム
	08.10	セキュリティ産業新聞	ドローンの操作など体験 小学生対象の職業体験プログラム開催 ALSOK/フューチャー イノベーション フォーラム
	08.11	日本流通新聞	佐川急便で職業体験 小学生が荷物届ける
	08.17	J:COM港新宿 「デイリーニュースダイジェスト港新宿」	セキュリティの最前線を体験
	08.17	YOMIURI ONLINE	佐川急便 職業体験プログラム
	09.01	警備保障タイムズ	ALSOKで職業体験 小学生24人が夏休みに
	09.03	全私学新聞	小学5、6年生対象に職業体験プログラム 未来のセキュリティ等を学ぶ
	09.18	おたくま経済新聞	躍進企業の挑戦～イノベーションが切り拓く未来
	09.21	Yahoo!ニュース BUSINESS	「インダストリー4.0」に学ぶドイツ企業の競争力の源泉



## 東京ベイネットワーク「ベイネットニュース」

2015年8月5～12日放送



## Logistics Today

2015年8月6日

### 佐川急便東京本社で8回目の職業体験イベント

2015年8月6日 (木)

【イベント】 フューチャーイノベーションフォーラム (FIF、東京都品川区) は6日、佐川急便東京本社で7月29日に職業体験イベント「物流の最前線」を実施したと発表した。



8回目を迎えたこのイベントは、フューチャーイノベーションフォーラムが企画・運営しているもので、2007年にスタート。キャリア教育の場として、これまでに140人を超える子供たちを受け入れてきた。

当日は抽選で選ばれた小学5、6年生20人が佐川急便の制服を着用し、トラックの乗車体験のほか、物流施設「佐川東京ロジスティクスセンター」で荷物の自動仕分け機などを見学しながら宅配便が働くしくみを学習、荷物の配達実習を行った。



また、リーダーシップや働くことより深く考えてもらえるよう、佐川急便の栗和田栄一会長 (SGホールディングス会長) との質疑応答の場を設けた。参加者からは「佐川急便が最初に運んだ荷物は何か」といった質問や「配達実習がドキドキしたけど楽しかった」「さまざまな所を巡って荷物が配達されることがわかった」といった感想が寄せられた。

また、今回は過去にこのイベントに参加し、高校・大学生へと成長した6人がボランティアスタッフとして参画。互いの成長を確かめ合い、将来の進路やキャリア改めて考えられるよう、未来の物流を考えるワークショップや社員との交流会を行った。

## 物流ニッポン

2015年8月6日付



自動仕分け機のベルトコンベヤーで荷物の発送を体験

# 小学生対象に職業体験

佐川急便&FIF

## 制服着用し配達実習

佐川急便 (荒木秀夫社長、京都市南区) とフューチャーイノベーションフォーラム (FIF、牛尾治朗・金丸恭文共同代表) は7月29日、小学生を対象とした職業体験プログラム「物流の最前線」を佐川急便東京本社 (東京都江東区) で実施した。参加した子供たちは荷物の集荷・配達の実習をはじめ、様々な

トラックや物流施設の見学などを通じ、物流の仕組みについて学んだ。8回目の今回は、東京都、埼玉、神奈川、千葉の小学5、6年生20人が参加。同プログラム初の試みとして、2007～10年に参加した高校2年～大学4年のOB・OG6人がボランティアスタッフとして参

加。以前とは立場を変えて、子供たちをサポートし、子供たちは制服を着用し、セールのドライバーの仕事を、宅配便の仕組みなどの講義を受け、ウイング車や冷凍車、CNG (圧縮天然ガス) 車、電気自動車 (EV) など様々な配達車両を見学し、乗車も体験。また、都内最

大級の物流施設、佐川東京ロジスティクスセンターで、荷物自動仕分け機を見学しながら物流の仕組みを学習した。配達実習では、子供たちが東京本社内にある店舗にセールのドライバーとして

荷物を届けた。自動仕分け機のベルトコンベヤーで自分たちが送り状を付けた荷物 (中身はサプライズのおみやげ) を発送。方面別に仕分けられる光景を興奮気味に眺めていた。

最後に感想をまとめ、SGホールディングス (町田公志社長、京都市南区) の栗和田栄一会長との質疑応答の後、修了証が授与された。子供たちからは「荷物を届けることが大変だと分かった」「物流の仕組みを学び勉強になった」など仕事への理解を深めた様子だった。

更に、ボランティアとして参加したOB・OGは、ワークショップ「未来の物流を考える」に参加し、新たなサービスについて提案した。

(田中信也)



# セキュリティの最前線

## J:COM港新宿「デイリーニュースダイジェスト港新宿」

2015年8月17～23日放送



## セキュリティ産業新聞

2015年8月10日付



ドローンの操作体験を行う子どもたち



連携して「スパイ犯」を確保



子どもたちに優しく語りかける青山社長

# ドローンの操作など体験

## 小学生対象の職業体験プログラム開催

### ALSOK/フューチャーイノベーションフォーラム

ALSOK(東京都港区、青山幸恭社長)は7日、企業など協力して社会貢献活動を行うフューチャーイノベーションフォーラム(東京都品川区、牛尾治朗・金丸恭文共同代表、以下FIE)とともに、小学5、6年生を対象にした職業体験プログラム「セキュリティの最前線」を本社で開催。都内や関東近県を中心に、遠くは福島や広島などから24名が参加した。

FIEは、企業と連携して子どもを対象とした職場体験プログラムを実施しており、ALSOKで行うのは今回が3回目。会社紹介を行った後、自立走行型警備ロボット「リボークX」について説明。選ばれた参加者は、顔認証システムによるデモ実演を体験した。

続いて、同社がメガソーラー発電施設のパネル点検などに活用しているドローンを紹介。今回のプログラムに参加した子どもの中には、ドローンへの関心がきっかけという例も見られ、ドローンの操作を実際に体験した参加者は飛行の様子を熱心に見ていた。

また、今回初めての試みとして、ウェアラブルデバイスによるソーン警備体験も実施。「人とITを融合した未来のセキュリティ」をテーマに、ウェアラブルカメラやスマートフォンなどの活用に加えて、警備ロボットやドローンとも連携した未来の警備について紹介。

参加者たちはスマートフォンなどで情報共有しながら連携し、社員が扮した「スパイ犯」や「ひったくり犯」の確保などを行った。さらに、地震対策などの紹介があった後、参加者はAEDを使用した心肺蘇生法も体験した。

最後に青山社長が、参加者たちに修了証を手渡し、同社の多岐にわたる業務を実感できるプログラムが終了した。

ホームページ

<http://fif.jp>



facebook

<http://www.facebook.com/fif.2006>



お問い合わせ先

フューチャー イノベーション フォーラム

事務局: 〒141-0032 東京都品川区大崎1-2-2  
アートヴィレッジ大崎セントラルタワー15階  
(フューチャーアーキテクト株式会社内)

TEL: 03-5740-5817

E-mail: [forum@future.co.jp](mailto:forum@future.co.jp)

発行: 2016年3月



Future Innovation Forum

